

# 令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年10月27日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時47分

---

## ○会議に付した事件

協議事項

1. 全体討議の振り返り
  2. 政策提言に向けて
- 

## ○出席委員（6名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	氏 家 裕 治 君	委 員	久 保 一 美 君
委 員	長谷川 かおり 君	委 員	貳 又 聖 規 君

---

## ○欠席委員（2名）

委 員	西 田 祐 子 君	委 員	森 哲 也 君
-----	-----------	-----	---------

---

## ○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	本 間 力 君
主 査	八木橋 直 紀 君
主 任	神 綾 香 君

## 人口減少に対応する政策研究会（第27回）

### 【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

#### 1. 全体討議の振り返り

○大淵座長 前回10月13日に議員全体で開催した全体討議について、感じたことや意見を伺いたい。

○長谷川委員 佐藤副座長が作成した資料と発表を見て、委員として改めて振り返りができた。また、全体討議を行ったことで課題の抽出がされてきていると感じた。

委員外議員からの意見や協力隊との懇談で、一次産業や観光振興についての話題が上がっていた。こういったものをひとつの社会資源として活かしていくべきだと感じた。

○氏家委員 政策研究会で話し合ってきた内容を議員全体で共有することができ、大変有意義な場であったと思う。

委員外議員からは、政策研究会としてどういった視点でものごとを捉えたのか、どこまで考えているのかという疑問があった。今回の全体討議で、政策研究会がどこまで踏み込んだ議論をしているのか知ってもらえたのではないかな。

○佐藤副座長 基本的には前向きな意見が多くよかったが、もう少し予算の具体的な部分の話や質問が出てくるかと考えていた。話題の広げ方や自由討議の進行についての工夫が課題であったと感じた。

○大淵座長 全体討議に至るまでの25回の政策研究会は、重みのあるものであると感じた。質疑に対して委員全員で答弁し、委員外議員にも政策研究会全体で協議をしている印象を持ってもらったのではないかな。

○久保委員 地域おこし協力隊の活用やそれに伴う住居問題などが浮き彫りになってきた。自由討論を行ったことで、空き家問題や、若者は持ち家よりも賃貸を好んでいるなど、一つずつ突き詰めていくことができたのではないかな。

○大淵座長 事務局からも何か感じたことがあれば伺いたい。

○本間局長 25回の議論を行い課題の掘り起こしをした上での全体討議だったので、結果として前向きな内容になったのではないかな。今後はこれからの提言に向けてどう捉えて進めていくかが重要である。

#### 2. 政策提言に向けて

○大淵座長 地域おこし協力隊の活用については、全体討議を踏まえた中間報告と結論を定例会12月会議で出したいと考えている。委員外議員から「本会議やそれに準ずる公の場面での提出が必要」との意見があったので、提言書の提出方法と合わせて協議したい。

自由討議で出た意見のどの部分を補足として取り上げるか協議し、まとめを行い、新たなテーマへ進みたいという考えもある。今後の進め方も含めて意見を伺いたい。

全体討議で出されたサラブレッドなど一次産業との連携や空き家問題についての意見などは取り入れた方がよいのではないかと考えている。

○氏家委員 地域おこし協力隊員数を常時12名と考えたときに、町の支援で住める住居を確保する場合は最低12戸必要になる。環境整備等の予算措置を含めた提言をしなければならない。

空き家問題については今までも議論してきた内容なので、改めて議論すべき。

隊員の目的によって希望の地域もあると思うが、各地区にまんべんなく住宅があるとよいのではないかな。

○貳又委員 政策提言は実現可能なものである必要がある。今後は政策研究会で出した意見を議会全体の総意として行政に伝えることになるが、政策実現を視野に入れた進め方が必要だと考える。政策実現をするため、議会としての仕組みを強化させることが大事だと感じた。

○佐藤副座長 全体討議の意見では具体的な数字も出ていたので、盛り込むことでより総意を取りやすく実現性もあるのではないかな。

○氏家委員 政策提言へ持っていくときに、予算などの裏付けが必要になってくる。協力隊員個々に支援するという考えではなく、空き家対策等まちの手当として持っていくと裏付けもできるのではないかな。

○大淵座長 提言書の体裁について協議したい。中身は長くせず、前回の報告書を基に今回出され

た意見を取り入れて作り上げ、提言書そのものは多く書かなくてもよいと考えている。

○本間局長 中間報告で出された政策研究会の意見が5項目あるが、これに沿って実現可能な提言の具体化を入れながら整理していく必要がある。

○氏家委員 全体討議の意見を政策研究会の中で議論して、必要であれば担当者呼んで内容を詰めていくことが大事である。全体討議で出されたので盛り込むという考えではなく、しっかりと議論する場が必要である。

○貳又委員 今回出された一次産業との連携や空き家対策はあくまでも手法である。提言内容は大枠の話があり、そこにぶら下がる個々の取組である。

大事なことはどのような協力隊が必要なのかということではないか。方向性は入れた方がよい。

○本間局長 具体的実現可能な提言をまとめていくための掘り下げ方だと思う。固有のことでいけば政策と裏付けをきちんとしなければならぬとなれば馴染む馴染まないという捉えもあるので、大きなカテゴリーの政策の中で具体性を高めるような視点で議論すべきかと思う。

○氏家委員 全体討議で上がった個々の意見に関しては反対意見もなかったのが共感している部分もあるかとは思っている。政策研究会の中で話し合われた議論とマッチングさせながら必要であれば前に進めていくという考えがよいのではないか。

○大淵座長 政策提言の中身は地域おこし協力隊についてである。人数の問題と体制の問題を町に対して提言する。空き家対策はもう一つ新たな政策提言として起こすべきという考え。協力隊で言えばこの提言で十分だと思うが全体討議の内容がどこかで反映されないと全体のものとならないので見える形で反映させて提言に盛り込むべきと考える。

○氏家委員 具体的に盛り込むとすれば12名という人数の住宅について具現性として12戸用意するというようなことを盛り込めればいいのかと思う。

○貳又委員 中間報告経過の中に全体討議で出された個々の意見が盛り込まれるということでのいいのかなと思う。

○大淵座長 前段で全体討議で挙げた意見を反映させるということでのいいか。

○佐藤副座長 経過を追加して提言は大きく変えず最低限のものでよいと考える。

○貳又委員 行政側の課題も見えてきた。各担当課で協力隊を活用したいが自分たちの業務が忙しすぎてそれどころではないという現状があり、4名の枠でも毎回同じ部署からの希望ということも想定される。政策研究会からこの分野で確保すべきというような提言も入れてはどうか。

○本間局長 繰り返しになるが、まとめ方としては中間報告を基に文言の整理を各項目で行っていきと作りやすいかと思う。

○貳又委員 協力隊の活用により産業の底上げになるというような議論も必要かと思う。

○長谷川委員 後継者づくりの仕組みを町で構築できないかという声も聞いているが、地域おこし協力隊制度が繋がると思う。

○氏家委員 担い手不足解消の重要性を捉えないと募集につながらない。議会からまちを動かすことも大事。その役割を政策研究会が提言を通してまちを動かせるのであればその辺をしっかりと認知してやっていくことが大事だと思う。

○大淵座長 町へ提言した後にそれをベースに一般質問に活用することもできる。

○貳又委員 個々の一般質問と連動させながら政策実現に向けていくというように考えたい。

○大淵座長 前回の中間報告を基にして経過の中に全体討議での意見を追加することとしてよろしいか。(一同：よろしい) それでは、提言の仕方はどうするか。

○本間局長 本会議の日程に組み込んだことは今までないと思われる。定例会散会後に議事堂で行うことは可能である。

○大淵座長 議会として提言することになるので、12月会議が閉会した後に議事堂で町長に対し座長が提言書を渡すこととする。

○本間局長 町の体制として、担当課から地域に情報がおりていないという現状がある。担当課から地域の課題を拾い上げるような情報共有的なものを提言の中に加えるべきかと思うのでその辺の協議もお願いしたい。

○貳又委員 今までの行政の予算のつくり込み、地域おこし協力隊の提案については、民間とのやり取りがイメージされていない。マッチングの仕方によっては担い手養成ができたりするので制度の趣旨をしっかりと民間企業に周知すると前進すると思う。

○佐藤副座長 周知については交流促進や民間企業への周知など文言の整理やまとめの部分で考えたい。

○貳又委員 柔軟な発想で活用方法を検討することが行政の課題と感ずる。

○氏家委員 柔軟な発想での提言は必要である。きっかけづくりが協力隊に求められるもの。

- 大淵座長 役場の職員が仕事をしやすくするにはどうすればよいかと考えるのは議会の役割である。
- 氏家委員 提言はあくまで一步進むためのものであって、政策研究会が各常任委員会の活性化の火種になれることが理想だと思う。
- 大淵座長 文書のやり取りや資料だけではなく実際に議論して目で見ることが大事だと思う。
- 佐藤副座長 様々な課題に対して協力隊という選択肢が当たり前になることが一つのゴールなのではないか。人数の枠に対して各課の争奪となるぐらいになればよい。  
政策研究会で出された意見を基に各議員が一般質問や提案に活用する。それによって行政が動くという体制になるとよい。
- 大淵座長 今日の議論を基にまとめの案を出して 11 月の研究会で話し合っていくというスケジュールで進めることとしてよろしいか。(一同：よろしい)